

ひたちなか市教育委員会会議録

令和 7 年 第 7 回 ひたちなか市教育委員会 5 月定例会 会議録					
令和 7 年 5 月 2 0 日（火）		開会 午後 4 時 0 0 分		閉会 午後 4 時 4 0 分	
場 所	市役所第 3 分庁舎 防災会議室 1				
出席委員	教育長 秋本 光徳	教育長職務代理者 佐藤 達	委員 鬼澤 宏幸	委員 大塚 佳代子	委員 原 嘉昭
欠席委員					
会議に出席した事務局職員	補 職 名				氏 名
	教育部長				箱崎 勝子
	総務課長				田口 清幸
	学校管理課長				笹沼 義孝
	保健給食課長				金澤 幸浩
	参事兼指導課長				田村 寿俊
	青少年課長				住谷 太一
	中央図書館長				近藤 貴史
	総務課課長補佐				菊池 徳
	総務課課長補佐兼係長				益子 太
	総務課主任				清水 貴文
議案審議等	議案第 1 0 号	ひたちなか市教育支援委員会委員の委嘱について【非公開】			
	議案第 1 1 号	ひたちなか市立図書館協議会委員の委嘱について【非公開】			
その他	その他（１）	令和 7 年度ひたちなか市教育研究所職員・各種相談員について【公開】			
	その他（２）	令和 7 年度学校閉庁日の実施について【公開】			

令和7年第7回ひたちなか市
教育委員会5月定例会会議録

開会 16:00

教育部長 定刻となりましたので、始めさせていただきます。お手元の次第に従いまして、令和7年第7回教育委員会5月定例会を進めさせていただきます。

それでは、教育長よりご挨拶並びに開会の宣告をお願いします。

教育長 あらためましてこんにちは。暑くなってしまった中でご参集をいただきましてありがとうございます。

先週、全国都市教育長協議会というものがあまして、川越市に出張してきました。文科省の方からの行政説明も聞いてきまして、我々のところの範疇でいいますと、教育委員会については、私や委員の皆さんは議会の同意を得て市長から任命されて、総合教育会議もありますので、首長との関係性というのもスムーズにというような話もございましたし、場合によってはオンラインの会議もどんどん行っていった方がスムーズになるのではという話がありました。

また、委員さんが発案するような、そういうアイディアなどについても、話し合っていったらいいんじゃないかという話もあつて、それはこの記録に残るような場面ではなく、別の機会から話を始めていく方がよろしいかとは思いますが、というような話を先週受けてきたところです。

いろいろな形で、我々も考えていきたいと思っておりますけれども、ご協力のほどよろしくお願いします。

また学校の方は、運動会が始まっています。もう暑くなり始まってしまって、ちょっとかわいそうな学校とかもあります。

6月になりますと、今度は中学校の修学旅行があつて、食中毒や熱中症にも当然気を配らなければならない時期に突入してきます。

いろいろと課題を抱えておりますけれども、我々ができることを着々と鋭意行ってまいりたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

それでは、令和7年第7回教育委員会5月定例会を開会いたします。

本日は、議案審議が2件、その他が2件です。

本日の議案第10号・議案第11号については、公開することにより率直な意見の交換が損なわれるおそれがあるため非公開にしたいと思いま

す。

非公開とするときは、討論を行わないでその可否を決定しなければならないとされていますので、この案件を非公開とすることに賛成の方の挙手をお願いします。

(全員が挙手)

教 育 長 全員賛成ですので、非公開といたします。

議案第10号 ひたちなか市教育支援委員会委員の委嘱について【非公開】

議案第11号 ひたちなか市立図書館協議会委員の委嘱について【非公開】

* 議案第10号 ひたちなか市教育支援委員会委員の委嘱について、議案第11号 ひたちなか市立図書館協議会委員の委嘱については、全員一致で可決されました。

教 育 長 非公開を解きます。

その他(1) ひたちなか市教育研究所職員・各所相談員について

指 導 課 長 ひたちなか市教育研究所職員・各所相談員につきまして、ご報告いたします。その他(1)資料をご覧ください。

本年度は、表にございますとおり、教育相談員8名、情報教育アドバイザー、学級経営アドバイザー、生徒指導アドバイザー各1名、特別支援教育アドバイザー3名を研究所に配置し、表中にあるように、教育相談活動や、学校への支援を行っております。

また、いじめや不登校などの問題への対応といたしまして、6にありますサポーターや相談員を任用し、学校や家庭に派遣したり、研究所での相談を行ったりして問題の解消へ向けて支援を行っております。

このように、教育研究所におきましては、その要因が多様化するいじめや不登校の問題に対し、本年度も様々な支援の体制を整えながら、児童生徒の個々の実態に応じた適切な支援を行ってまいります。

【質疑、意見等】

教 育 長 追ってある程度まとめながら数字のようなものがお示しできるようになると思うんですけども、不登校は実際に増えています。

そういうこともあって、昨年度からの校内フリースクールにつきまして、大島中学校と勝田第三中学校と、那珂湊中学校の3校でしたが、今年

度からは、県からの加配がありまして、美乃浜学園が4校目ということになりました。

いじめなどの問題については、被害・加害両方ありますので、昨今の特徴としては、やはり親御さん同士の話し合い、なんていうのが必要になってくるケースが増えているところです。

なので、家庭の問題も含めて今説明がありましたメンバー以外にも、スクールソーシャルワーカーに頼むこともあり、いろいろな形をとりながら、場合によっては家庭の問題であれば、子ども部とか、保健福祉部との連携を図りながら進めていっているのが実情です。

いろいろな形で皆様のお知恵なり、ご協力をいただきながら今後も進めていきたいと考えているところです。

指導課の方でも、本当に学校に届いていないお子さんたちに対して、希望者というか、答えてくれる方だけしか回収できていませんが、グーグルホームでアンケートを取って、家にこもっているお子さんや、その親御さんに対して、そのような調査を少しずつ始めているところです。

なかなか全員というところまでいきませんが、いちょう広場が適したお子さんの段階と、あとは校内フリースクールで、もうちょっとすると、学級教室の方に届くかなという場合と、いろんなフェーズがありますので、指導課の方を中心に研究をしてもらっているところです。

どういうところに資源を投じたらいいのかっていうのを今見極めながら、進めていく必要があらうかと考えているところです。

その他（２） 令和7年度の学校閉庁日の実施について

指導課長 続きまして、令和7年度の学校閉庁日の実施につきまして、ご報告いたします。その他（２）資料をご覧ください。

本市におきましては、平成30年度より、盆の時期、県民の日、年末年始の3期に学校閉庁日を設定し、毎年その暦により検討して実施してまいりました。

令和7年度につきましては、市校長会と協議し、8月13日水曜日から15日金曜日までの3日間、11月13日木曜日の県民の日、の計4日間を学校閉庁日として設定し、実施してまいります。年末年始につきましては、今年度は曜日の関係上学校閉庁日を設定いたしません。

なお、学校閉庁日におきましては、学校に日直を置かず、部活動等も実施いたしません。また、保護者等から学校への電話連絡につきましては、市役所に連絡を入れるように事前に周知し、指導課が必要に応じて、各学校の管理職等に連絡するようにしたいと考えております。

【質疑、意見等】

特になし

○全体質問

大塚委員 報道でもありましたイングリッシュキャンプの件ですが、皆さんご存じですか。参加者は小学生だったと思うんですけども、後援にひたちなか市も入っておりまして、宮城県の復興支援ということが書かれていたんですが、返金が未払いということで、テレビでも何度も取り上げられていて、ひたちなか市ではその件について保護者さんから問い合わせ等はありませんでしたか。

私も娘を参加させるかどうか迷っていたんです。ただ、参加費は数万円でしたし、もし予定が入ってキャンセルした場合、これ返金対応はどうなるんだろうというところが心配でしたので結局エントリーしなかったんですけども、その返金対応がされてないということで今話題になっています。

総務課長 後援は昨年出しておりますが、被害の情報は入ってきていません。

佐藤委員 校内フリースクールで不登校関係が増えていることについて、近隣の市ではフリースクールを全中学校、小学校には6校まで広げています。ひたちなか市もフリースクールを広げるとかまた違った方向で不登校対策をしていくのかという方向性が欲しいです。

保育園から小学1年生に上がった途端に、小学校に行かなくなってしまう、お兄ちゃんお姉ちゃんも学校に行っていないような家庭がありました。あとは、2歳になる子が保育園に行ってなくて、お兄ちゃんお姉ちゃんも学校を休んでいて、教育委員会や幼児支援担当課が家庭訪問をしても親に会えない家庭もありました。保育園や小学1年生からそういう状態だったら不登校にもなってしまうのかなと思ってしまいます。そういう状態で6年生の女の子が中学校に行ったら、ちょっとSNSで誘われたらどこかに行ってしまうんじゃないかという心配があります。ひたちなか市もその辺の情報、全然家とコンタクトを取れない家庭があるのかどうか、集約しておく必要があるのかかもしれません。

教 育 長 以前も申し上げたかもしれないんですけど、少なくとも子育てに困難を抱えている家庭については、教育委員会だけではなくて、子ども部との連携しながら進めていかなければならない非常に重い課題だととらえております。先の出張でもこういう話題もあつて、家庭教育支援員などで、小学校に上がらない前の就学前の対策に力を入れているような自治体もあったんですけど、そこら辺との連携ってというのは非常に大事で、先ほど佐藤委員がおっしゃったように小学校に上がってきてからでは、場合によっては手遅れかもしれないんですね。

就学前の段階でいかに情報をキャッチして、それでうまく気をつけられる。それは、場合によっては親御さんが何か困難を抱えている場合もあれば、子どもさんの場合もあれば、親子してってというような場合もあると思います。なんていう情報はプライバシーなので限界はあるんですけども、子ども部や保健福祉部とは密に連携をとっていこうということは、市役所の中では、約束はできてはいるんですけども、そこら辺のところを密にしながら、地域にもご協力いただいて、例えば最後はそういうふうになったご家庭が、悩みを吐露できるような場所ですよ。その1つとしては不登校のお子さんを抱えた親御さんの、大島中のようなピアサポート・ピアカウンセリングの場を、なんていうのをこないだの青少年相談員さんの集まりなどでは、中学校区ごとに塊になっていますので、ぜひそういうのをちょっとご検討いただければありがたいというような話をしたところです。

その辺の風通しがよくなって、必ずしも不登校は怠慢なわけじゃないですよ、なまけているわけじゃないですよ。でも、学校に届いた方がいいですよってというような、そういうベクトルに持っていけるといいなとは思っていますけども、それも含めて、校内フリースクールに力を入れた方がいいのか、それともいちょう広場のような、民間のフリースクールと同じように、学校に行きたくないお子さんのためのような場になる場合もあるでしょうし、そこに力を入れた方が、多くの人数のお子さんをカバーできるか、様々なフェーズがあると思うんですけど、ちょっとそのところを、今研究しているところです。

また、今度の関東地区教育委員会連合会総会の会場である長野市では、不登校特例校を非常に頑張っているところです。県央で言えば学びの多様化学校として、リリーガーデン小学校が開設していますし、それも1つのあり方だと思います。

鬼 澤 委 員 今不登校が全国的に増えているということは間違いないんですね。

教 育 長 年々増えて、毎年過去最多になっています。

鬼 澤 委 員 出生率もそうなんでしょうけど、エリアによって、このエリアはそうでもないとか、ここは増えているみたいな、県によって違うということはありませんか。

教 育 長 それはあると思いますが、そこまで分析しきってないです。ただ結果が出ていますので、やりようはあると思います。その中でひたちなか市がそれほどでもないなら、そんなにこ入れも必要ないかもしれませんけど、ひたちなか市としても、去年から比べると、全国的な順位は別として、また県内の中での順位は別としても、増えていることは事実です。

大 塚 委 員 ちょうどタイムリーに、家庭訪問で相談をしていただけたということで、今度話し合いがあるんだという家庭の方とお話できました。その後どうなったかは分かりませんが、小学校高学年から行けなくなって、もちろん入学式も行けてなくて、ずっと通えていなくて、ずっと家でゲームをしている。先ほどグーグルホームでも回答いただけないご家庭がいらっしゃるという話があった中で、その家庭ではヘルプを出せたので、前に1歩でも進めないかということでご家族とよかったですねって言うてお話ししたところでしたので、通えてないお子さんからするとまずそこからスタートですよ。

教 育 長 担任や養護教諭とか学年主任が家に行っていくのはあるんですけど、本人が会ってくれるかどうかというのは、難しい問題で、ただ最終的には教員は治療の専門家ではないので、専門機関につなげることが大事なんですけど、いわゆる不登校児童生徒の 38.8%が専門機関に繋がってないですよ。

そこを何とかしてあげないと、将来的なその社会的自立っていうところに繋がらないので、そのままひきこもってしまいます。

鬼 澤 委 員 例えば今世界的にはいろんなそのゲームや、SNS 規制が入り始めていますが、日本ではそういうことをあまり言わない。

でも、もしかしたらそこにゲームという問題が潜んでいる可能性もあります。何でも企業に、やらせ放題という姿が、AI の問題もそうだと思うんですけど、ある程度そこを規制していかないとまずいんじゃないか。親の

知らないところでどんどんゲームの世界に引き込まれてしまいます。不登校とリンクしている可能性があるんじゃないかと思います。

佐藤委員 休んでいる子は、休んで勉強していたり通信教育で勉強していることもあるかもしれないですけど、基本的に夜ゲームをしたりして仲間と繋がっていて、昼間寝ていることが多いです。昼間、鍵閉めて部屋にこもってしまうとこれまた大変です。

鬼澤委員 そのゲームの世界が、今まさにすごい能力ある半導体があって本当にすごい進化をしています。

リアルの世界にいるがごとくゲームがすごくなっていて、それがもうある程度きちとした大人がやるならいいけど、そういう抵抗がない子どもがアクセスできてしまうので、それでいいのかなと議論するべきところはあるんじゃないかと思います。

教 育 長 規制をしなければならないっていう国は出てきていますね。

昼夜逆転の原因って、自信がないからという場合があります。夜だと、明かりがつかない限りは顔が目立たなくて済むので、自信がない子が夜起きて昼間起きられないんです。

それを解決しないことにはおそらく何も進まないの、ゲームをやらなくて規制したとしても、何かやっぱり自信をちょっとつけさせるようなことをやらないと駄目なんですよ。

緩やかにでもいいから、その子どもたちで不登校同士の仲間でもいいので何かを語り合えるような、まさにピアサポートできるような場面とかを作っていく必要があると言われます。

大塚委員 今度大島中学校のピアカウンセリングの場所に、私も参加希望させていただくんですけど、例えば、端末を9時で使えなくなるとか、親御さんが、制御できている範囲ならいいんですけど、もう全部あなたにお任せしますってなったときに、まだまだ子どもなので管理が難しいです。

ゲームがなくても今 SNS っていういろんなものがありますから、何かこう書き込んだり、何かしたりと、自分の活躍の場じゃないですけど、居場所づくりをしていたりとかする方もいらっしゃると思うんですよ。

ただやっぱり、大人でもゲームに課金して破産する人もいらっしゃるの、やっぱり支援が必要な方って子どもに限らず、そういうところは見えていってあげないと、子どもに任せるという方針では、危険だと思います。

鬼澤委員　今そこはオンラインギャンブルの話が出ていますよね。大人でさえいつの間にかに引き込まれてしまって、今後はより AI が進化するから、もっと引き込むような仕組みが作られます。子どもなんてもっと危ないです。どんどん深みにはまってしまう。

そこがもし不登校と繋がっているとしたら、個人的な意見ですが、ある程度規制のようなものを考えないといけないんじゃないかなと思います。

教育長　審議会じゃないですけど何かこう、不登校という切り口で言えば、おそらく臨床例を一番知っているのは精神科医とかカウンセラーの人なので、その人たちの今まで関わった人たちの事例っていうのを、匿名でいいので教えてもらって、おそらくそれが一番エビデンスに近いものなんだと思います。

この間の出張でも、文科省の方がとある教育長さんから質問されて、「不登校の原因は何だと思えますか」という質問だったんですけど、「分かりません」ということになってしまう。文科省の方は教員の経験がない方だったんですけど、せめて「1つじゃないですよ」とか言って欲しかったんですけど、一番事例を知っている方々から聞いてないんじゃないかと思ってしまう。

ただネット上には、精神科医とか、心のクリニックの誰々さんとかっていう方々がかなり投稿してくれているので、私なんかそれを見ると勉強になる部分があります。

何かそこら辺の情報を、ひたちなか市内にもクリニックなどで関わっている方々がたくさんいるので、何かそういう事例を基にして、この段階だったらこういうのが一番お子さんには良いと思うんですね、なんていうことでも、研究しながら対応できるといいですね。

そうするとおそらく学校でも校内フリースクールに力を入れたほうがいいとか、いちょう広場に力入れたほうがいいとか、もう少しこうメリハリがついてくると思います。

鋭意研究しますのでまた途中経過を報告させていただいて、ご意見を頂戴できればと思います。

よろしくお願いします。

教育長　（閉会の宣言）

閉会　16：40